次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）
終了評価

令和４年８月３０日
「九州大学「多様性と創造的協働に基づくアントレプレナー育成プログラム（IDEA: Innovation × Diversity × Entrepreneurship Education Alliance）」
九州大学（九州大学コンソーシアム）

IDEA

目次

【1】計画の内容等 «プログラム全体像、実施体制、特筆すべき成果»	項
1.1　目指すアントレプレナーシップ教育の姿	4
1.2　プログラム全体像（コンソーシアム全体・主幹機関のみ）	5
1.3　EDGE-NEXT実施体制	6
1.4　特筆すべき成果	7
【2】目標達成度 «達成目標に対する達成状況»	
2.1　達成目標に対する達成状況	9
2.2　5年間成果	10-12
【3】取組状況	
3.1　コンソーシアムの構築	14-16
3.2　プログラムの整備	17-18
3.3　ベンチャー・エコシステムの形成	19
3.4　人材育成	20
【4】計画・改善手法の妥当性 «資金計画、PDCA»	**項**
4.1　資金計画	22
4.2　PDCA	23
【5】今後の見通し «継続性、波及効果»	
5.1　継続性	25
5.2　波及効果	26

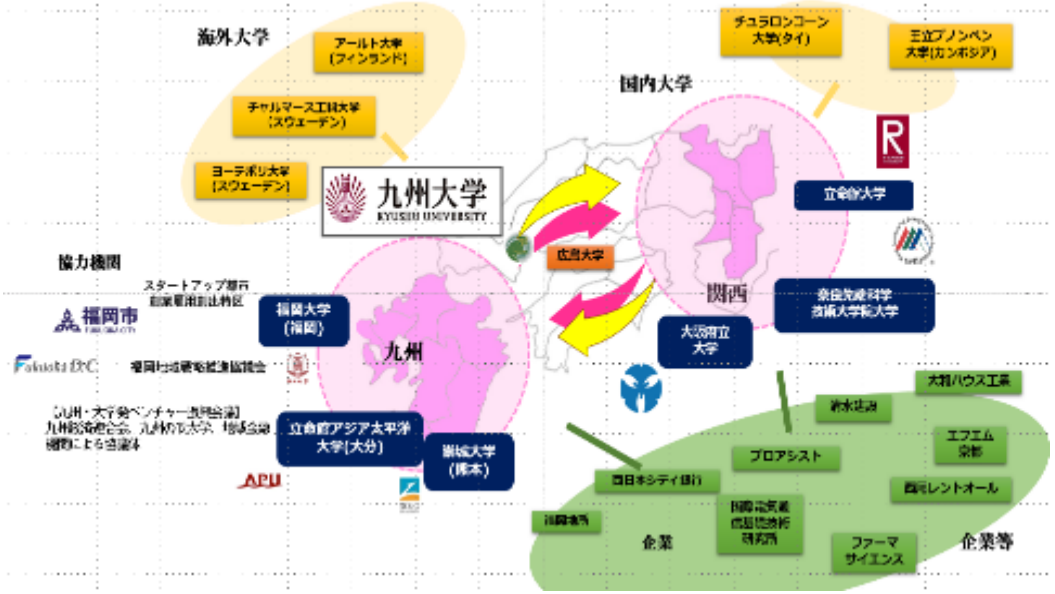
【１】計画の内容等

目指すアントレプレナーシップ教育の姿

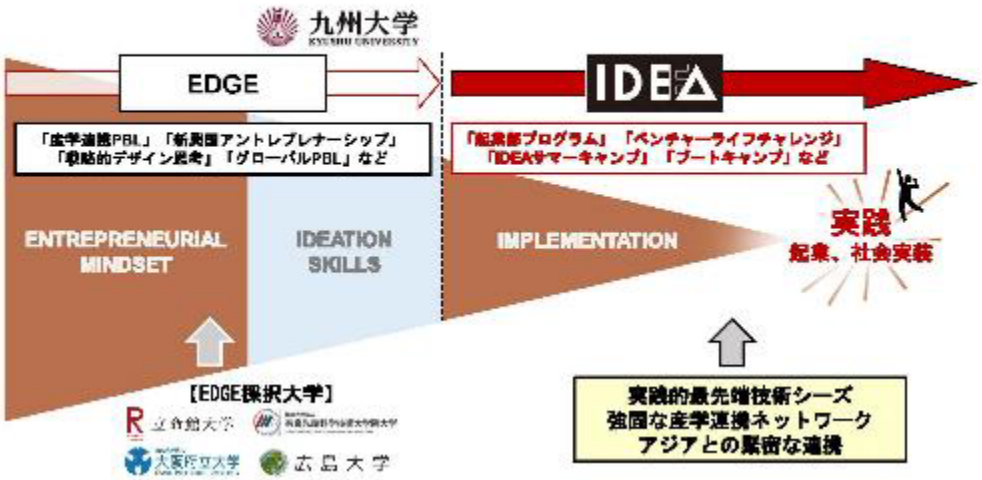
多様性をモノ・コト・サービスへと結晶化し、新たな価値創造と社会変革を導く人材としての「次世代グローバルアントレプレナー」育成を目指す。

具体的には、「多様性から協働的に価値を生み出す“共創力”」「デジタル技術とその最新動向に精通する“デジタルリテラシー”」「課題・コト／ヒト起点でソリューションを創造的に着想する“人間中心ソリューションデザインスキル”」「価値を社会実装するために他者を巻き込む“起爆型リーダーシップ”」を備えた人材の育成を目指す。

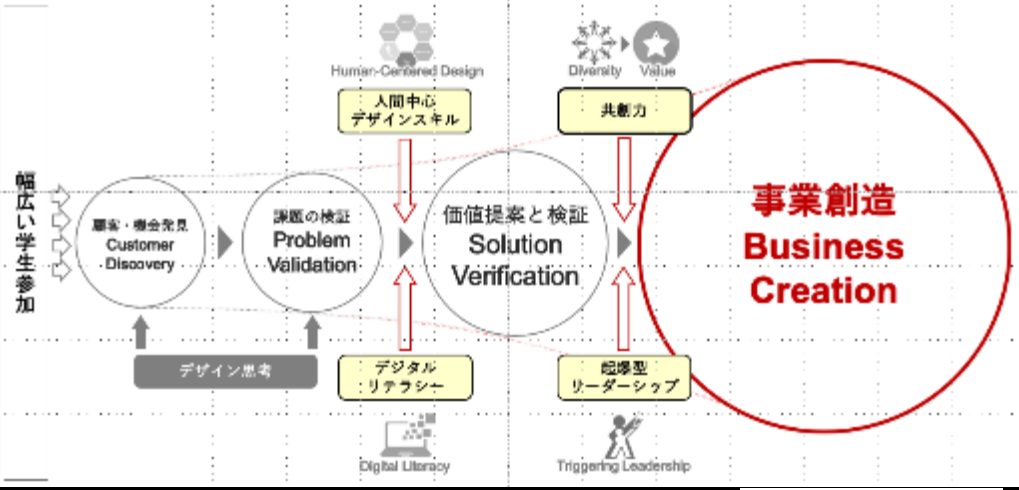
この目的実現のために、多様な知、実践、文化、人材等が交じり合う“MASHUP PLATFORM”――すなわち、国内外機関の多様な人材育成思想を有機的に融合させ、共創的な混ざり合いによるイノベーション創発を実践する「アジア発の次世代グローバルアントレプレナー育成プラットフォーム」を構築する。



起業、社会実装をゴールに見据えた実践的起業家教育とエコシステム形成を目指す



競争力と共創力を併せ持ったビジネスを創造しうる「次世代グローバルアントレプレナー」の育成



Innovation x Diversity x Entrepreneurship Education Alliance

IDEA

プログラム全体像（コンソーシアム全体・主幹機関のみ）

IDEAプログラムの全体像

EDGEから一段とステップアップした多面的、多元的 MUSHUP PROGRAM

多様性を活かした共創力を涵養

IDEA Summer Camp IDEA
コンソーシアム内の学生がAPUに集結、アジアの社会課題解決

起業部 九州大学
10年で50社。うち、5社のEXIT

NAIST
XxX (Cross-By-Cross)
多面的クロスオーバー型PBL

Women-trepreneur
女性視点でのイノベーション創発、起業率上昇を推進

実践にフォーカスしたアントレプレナー育成

Business Sprout
リーンローンチパッド型・個別メンター支援型

Venture Life Challenge 九州大学
九州及び関西域内のスタートアップでの問題解決を実践

九州大学
マネジメントゲーム
経営シミュレーションを通じ、九州・関西の学生が学び合う

九州大学
Entrepreneurship Bootcamp
米国ボストンで多国籍チームスタートアップ創業実践

Idea Evaluation 九州大学
大学発の技術シードの価値評価と事業化プロセスのPBL体験プログラム

立命館大学
Field-based Design Program
“現場”に触れ、課題発見力UP

カンボジアプログラム 大阪府立大学
王立プノンペン大学と連携し多国籍体制でアントレプレナー育成

Dual-Design Scope 立命館大学
問題解決とデザイン駆動両立

ソーシャルエコシステム 九州大学
アールト大学と協働、社会課題解決型デザイン力UP

先進的教育手法の開発

立命館大学
Knowledge Boost
アイデア創発の効率向上

海外を舞台に世界とともに学ぶ

九州大学
アジアIoTデザインWS
アジア⇔日本でIoT開発

医学系次世代E育成 九州大学
知財共有を軸に医系Eを育成

EDGE-NEXT実施体制

IDEAコンソ4校
連携会議
代表：九大髙田

主幹機関：九州大学
九州大学 KYUSHU UNIVERSITY
REC

連携大学：協力機関

◇チャルマース工科大学
◇ヨーテボリ大学
ともにスウェーデン
◇アールト大学
フィンランド

九州連携
代表：九大高田

協力機関：
立命館アジア太平洋大学

協力機関：
福岡大学

協力機関：
崇城大学

関西連携
代表：立命館

協働機関：立命館大学
立命館大学

連携大学：協力機関

◇チュラローンコーン大学：　タイ

協働機関：奈良先端科学技術大学院大学
国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学
NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY

協働機関：大阪府立大学
大阪府立大学 OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

連携大学：協力機関

◇王立プノンペン大学：カンボジア
◇国立台南大学：台湾
◇パンヤピワット経営大学：タイ

協力機関：広島大学

特筆すべき成果

1．地域内～地域間が連携したユニークな教育基盤の形成

EDGE事業で開発された教育を各機関で発展・高度化させたプログラム群に加え、九州／関西の地域内協働プログラム“Regional Core Program（RCP-Kyushu/RCP-Kansai）”、さらには九州と関西、そして国内外の協力機関の学生や社会人が渾然一体となって協働し、多様な文化・専門性・価値観・経験が混じり合う地域間協働プログラム“Interstate Collaboration Program（ICP）”というユニークな教育基盤を形成し、実践的アントレプレナーシップ教育を開発・展開した。

2．外部支援人材を巻き込んだエコシステムの形成

コンソーシアム全体を通じて、5年間通算でメンタリングやネットワーク形成支援等で関わった起業家、実務家、ベンチャーキャピタリスト等の外部人材は363名（延べ554名）に達し、上記RCPおよびICPを取り巻くエコシステムが形成できた。

3．コロナ禍を逆手に取った多様性のある学びの機会の提供

新型コロナウイルス感染症に伴う遠隔講義の普及によって、コンソーシアム内の各大学が他校のプログラムに積極的に参加者を送ることができるようになり、ICPが企図した国内外の機関に所属する学生及び社会人が渾然一体となって協働し、多様な文化・専門性・価値観・経験が混じり合うダイナミクスから実践的に学びを深める機会を増やすことができた。

4．学生有志の起業実践活動の場の形成

RCP-Kyushuに位置付けられる起業部プログラムの活動が他大学へ波及し、協力機関である立命館アジア太平洋大学や協働機関である奈良先端科学技術大学大学院でも起業部が設立されるに至った。

5．アジアへのアントレプレナー教育の普及促進

本コンソーシアムが重視するアジアからのプログラム参加者出身国は計15ヵ国に達するとともに、大阪府立大学がカンボジアの高等教育におけるアントレプレナー教育に関わるカリキュラム開発支援等を含む6年間の協力契約を締結するなど、アジアへのアントレプレナー教育の普及が図られた。

6．積極的な外部資金導入によるプログラムの自立性の確保

現金収入、人的・物的資源獲得等を含めた通算外部資金導入は1億93,220千円に達し、目標値であった実績1億円を大幅に上回って達成し、本事業終了後のプログラムの継続性が担保されるとともに、今後の自立的なプログラム開発と実施の足がかりを形成できた。

【２】目標達成度

達成目標に対する達成状況

	達成状況	達成目標	実績	達成率	備考
プログラム参加者数	◎	2,300名以上（うち学部生1,500名以上）	4,943名（うち学部生2,909名）	215%（うち学部生194%）	主催機関以外の国内外における協力機関及び参加機関からの学生や社会人受講者は、のべ935名（18%） 詳細はP11参照
アジアからのプログラム参加国	◎	累計15ヶ国以上	15か国	100%	インド・インドネシア・カンボジア・シンガポール・スリランカ・タイ・韓国・中国・パキスタン・バングラディシュ・フィリピン・ベトナム・マレーシア・ミャンマー・ラオス 詳細はP12参照
本プログラムに対してメンタリング、ネットワーク形成支援等で関わった起業家、実務家、ベンチャーキャピタリスト等外部人材の参画人数	◎	100名以上	363名（延べ554名）	363%	—
現金収入、人的・物的資源獲得等を含めた通算外部資金導入	◎	1億円	1億93,220千円	193%	詳細はP13参照

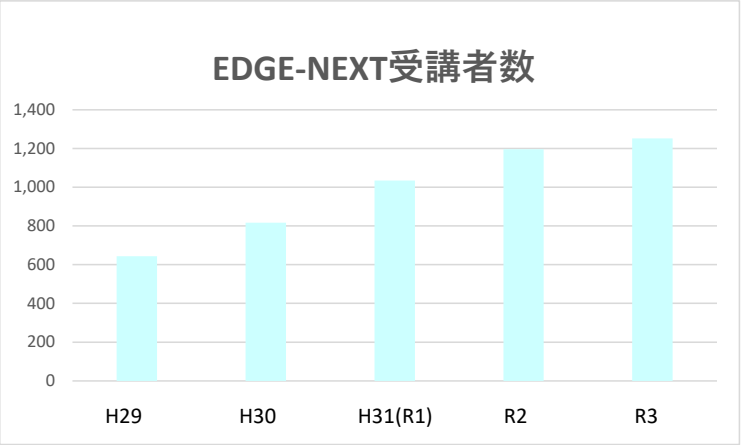
5年間成果・プログラム参加者数

《プログラム参加者について》

・コンソーシアム全体として約60%が学部生、25%が大学院生、残りが若手研究者・社会人・その他となっており、当初想定した受講層に対してバランス良くアントレプレナーシップ教育を提供できた。

・海外の受講者については、ヨーテボリ大学・チャルマース工科大学（ともにスウェーデン）が本事業における地域間協働プログラム（ICP）であるMulticultural Venture Life Challengeに、チュラロンコーン大学（タイ）及び王立プノンペン大学（カンボジア）が同じくICPであるIDEA Asia Pacific Summer Campに、学生が派遣されている。

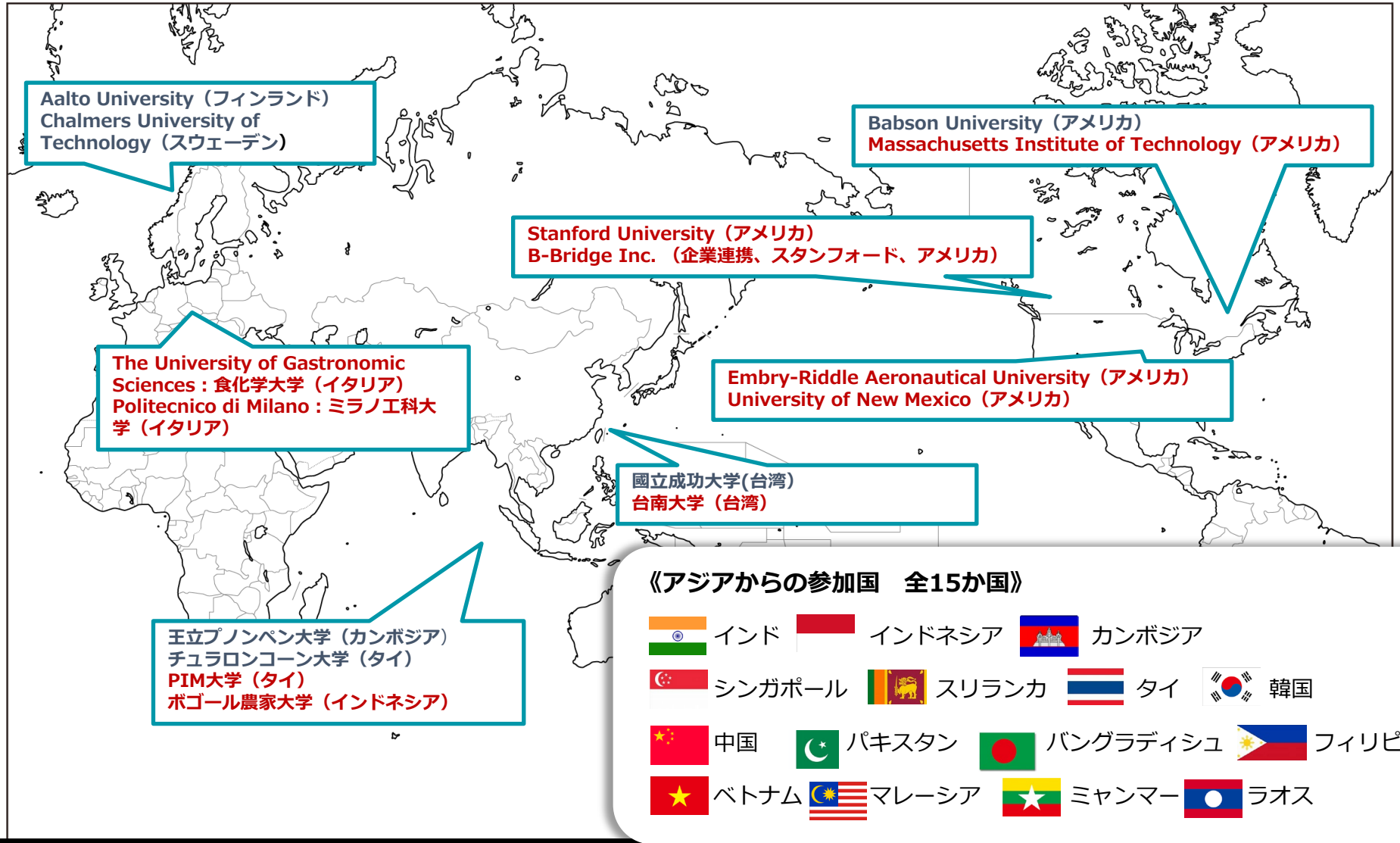
・その他九州大学の「Idea Evaluation」にパナソニック株式会社や福岡フィナンシャルグループの社員が参加、立命館大学も企業協賛ワークショップ等を開催し、社会人等の機関外受講者の拡充も積極的に行っている。



年度	受講者数	学部学生	%	大学院生	%	若手研究者等	%	社会人等	%	その他もしくは不明（名）	%
2017	644	404	63	179	28	1	0	45	7.0	15	2
2018	817	453	55	254	31	79	10	9	1.1	22	3
2019	1,034	547	53	270	26	33	3	34	3.3	150	15
2020	1,196	733	61	282	24	9	1	38	3	134	11
2021	1,252	772	62	266	21	31	2	127	10	56	4
総計	4,943	2,909	59	1,251	25	153	3	253	5	377	8

5年間成果・海外との連携及びアジアからのプログラム参加国

海外との連携：プログラム実施、学生交流などの海外連携大学の拡大



《アジアからの参加国　全15か国》

インド　インドネシア　カンボジア
シンガポール　スリランカ　タイ　韓国
中国　パキスタン　バングラディシュ　フィリピン
ベトナム　マレーシア　ミャンマー　ラオス

5年間成果・外部資金獲得概要

外部資金導入状況　(千円)	H29年度		H30年度		H31(R1)年度		R2年度		R3年度	
現金	12,446	79.74%	29,023	84.21%	22,866	74.87%	44,060	67.89%	41,330	86.63%
人的	3,096	19.84%	4,879	14.16%	2,561	8.39%	570	0.88%	379	0.79%
物的	66	0.42%	563	1.63%	5,112	16.74%	20,269	31.23%	6,000	12.58%
小計	**15,608**	**100.00%**	**34,465**	**100.00%**	**30,539**	**100.00%**	**64,899**	**100.00%**	**47,709**	**100.00%**
前年度からの外部資金繰越金額	**0**		**3,943**		**26,669**		**38,354**		**82,850**	
合計	**15,608**		**38,408**		**57,208**		**103,253**		**130,559**	
補助金額	**58,326**		**58,695**		**62,847**		**68,009**		**66,875**	
目標達成率	**26.76%**		**65.44%**		**91.03%**		**151.82%**		**195.23%**	
	20%		20%		30%		30%		40%	

《外部資金導入への取り組み》

・初年度、2年度に現金による寄付について積極的に働きかけ、複数年度の寄付を継続。
株式会社安川電機　毎年2,000千円（5年で10,000千円）　最終年
株式会社西日本シティ銀行　毎年2,000千円（5年で10,000千円）　最終年
株式会社麻生　毎年2,000千円（5年で5,000千円）　最終年

・卒業生からの寄付（期間2021年(R2)-2028年）
九州大学の卒業生起業家（２名）からの寄附として、令和2年度から7～10年間で、総額3億円を獲得して基金を設立し、今後の活動基盤を形成できた。

・アントレプレナーシップを軸にした共同研究、また、九州大学ビジネスプランコンテストの協賛として、現金収入も継続して取り込んでいる。

協働機関は、これまでの特色ある取り組みを継続して行っている。
- 立命館大学は、ワークショップやプログラムの協賛金、物的提供等より、外部資金を獲得。
- 奈良先端科学技術大学院大学は、現金による受講料収入、海外からの人的資源の提供による外部資金相当の支援を獲得
- 大阪府立大学については、ふるさと納税による現金収入の仕組みを継続しており、その他連携する企業等からの人的支援も獲得

現金について、主な提供企業、提供者
- 株式会社安川電機
- 西日本シティ銀行
- 株式会社麻生
- パナソニック株式会社
- FFGベンチャーパートナーズ
- 弁護士法人内田・鮫島法律事務所
- 株式会社Z&Hホールディングス
- 株式会社AGSコンサルティング
- 株式会社J&J事業創造
- 株式会社TVQ九州放送
- ニシム電子工業株式会社
- 諸藤周平
- 西尾レントオール株式会社
- 日本ユニシス
- 外部受講者受講料
- 卒業生等からの寄付株式会社

【３】取組状況

コンソーシアムの構築

《コンソーシアム内の大学等の連携について》

■4校会議等の定期的な開催

主幹機関である九州大学を中心に、4校会議を毎年3～4回の頻度で開催し、コンソーシアム全体の取り組みの方向性ならびに各校の予定や実施状況について共有を実施した。そのほかメーリングリストなどを用いてプログラムに関する情報の共有を積極的に行い、新型コロナウイルス感染症の流行に伴っては、各校のコロナ対応について情報やノウハウの共有を図り、コロナ禍でのプログラムの在り方について、意見交換を積極的に行うことで、コンソーシアム内のプログラムに展開を図った。

各種会議体の開催状況

会議体	主催機関	H29年	H30年	令和1年	令和2年	令和3年
IDEAコンソーシアム4校会議	九州大学	4	3	3	3	3
科学技術人材育成ステアリング委員会	大阪府立大学	2	2	2	2	2
人材育成センター・アドバイザリー委員会	大阪府立大学	1	1	1	1	1
IDEA(EDGE-NEXT）推進母体会議	九州大学	2	2	2	2	2
NAIST EDGE_NEXT運営会議	奈良先端科学技術大学院大学	3	9	10	10	12
crossxcrossワークショップ説明会	奈良先端科学技術大学院大学	3	-	-	-	-
EDGE幹事会	立命館大学	12	-	2	2	2
crossXcross運営会議	奈良先端科学技術大学院大学	6	-	-	-	-
共通教育総合センター会議	立命館大学	-	-	2	2	1
常任理事会	立命館大学	-	-	-	1	1

■コンソーシアム間の連携による相乗効果

コンソーシアム間の連携によって学生に幅広く機会を提供できたことはもちろんのこと、学生のみならず教員間のアントレプレナーシップ教育に関するノウハウ共有などが進むことに繋がった。

《取組事例》

・九州大学主催の「米国Entrepreneurship Bootcamp」において、大阪府立大学の教員の協力でメンタリングを実施。
・「医学系次世代アントレプレナー育成プログラム」を協力機関である広島大学のプログラムに組み込んで実施することで、より幅広い参加者を獲得。
・大阪府立大学の「ACCESS Program」のメンタリングや審査に主幹・協働機関の教員が携わった。

コンソーシアムの構築／企業・地域との連携実績

《企業・地域連携》

■九州大学「Idea Evaluation」
企業から社会人受講生参加により、学生＋社会人のチームで事業検討を実施。同時に資金受入（**パナソニック株式会社、FFGベンチャービジネスパートナーズ**）有。パナソニック社からは同時に技術シードをして頂き、事業構想を引き続き、実施している。

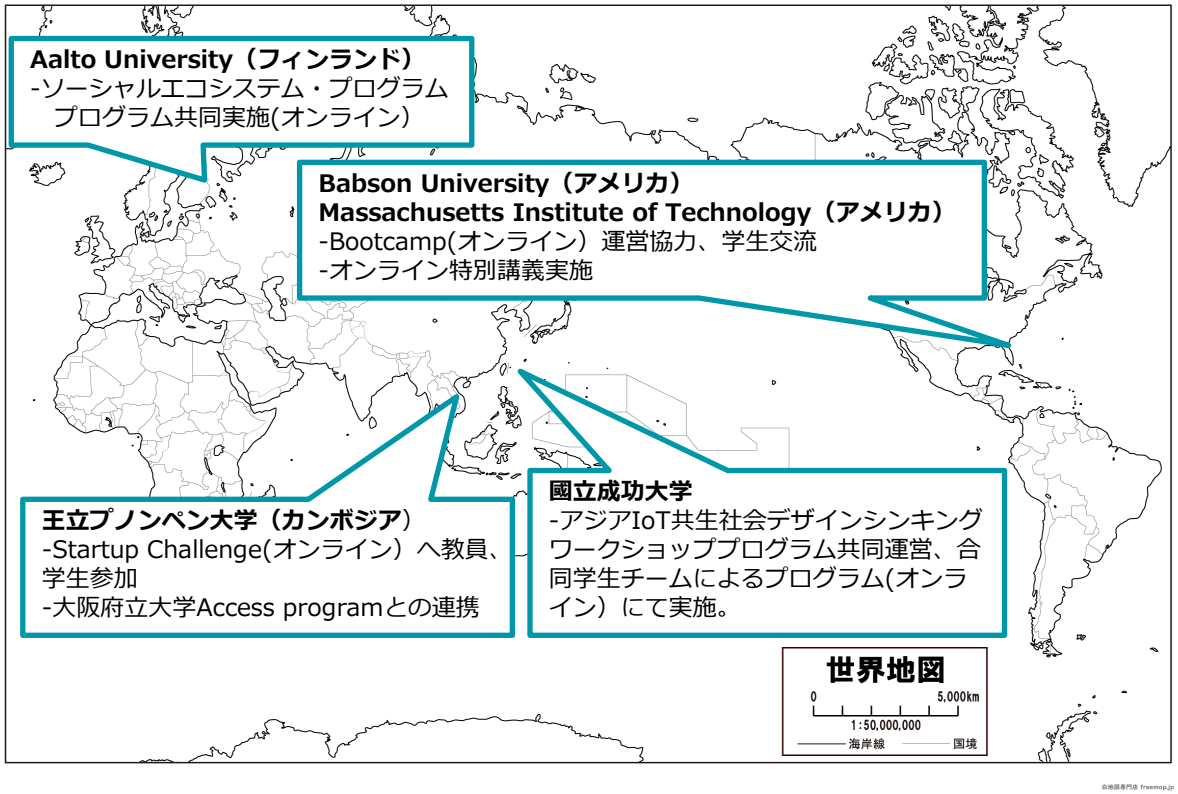
■立命館大学
日本ユニシス株式会社、株式会社ワコール、株式会社サイエンス、西尾レントオール株式会社と企業協賛ワークショップを開催。

■各大学⇔自治体との連携
各大学で福岡市、大阪府、大阪市などの自治体との連携を進め、特に立命館大学では、小・中学校と連携したアントレプレナーシップ教育の普及活動を行った。

■福岡スタートアップ・コン ソーシアム（EDGEにおける連携）
福岡市は、内閣府のスタートアップ・エコシステム拠点形成戦略に係るスタートアップ拠点都市形成事業に応募し、2020年7月に「グローバル拠点都市」に選定され、関連機関の連携強化につながっている。

https://www.fukuoka-dc.jpn.com/?page_id=30026

コンソーシアムの構築／海外との連携実績



《特筆すべき成果》

・これまでの連携を基盤として、九州大学が主幹機関として採択された「2020年度研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム＜社会還元加速プログラム（SCORE）大学推進型（拠点都市環境整備型）＞」の起業家育成プログラムにおいて、指導・支援人材の育成等の取組Faculty Development ProgramをBabson Collegeの協力を得て実施。

・大阪府立大学がカンボジアの高等教育におけるアントレプレナー教育に関わるカリキュラム開発支援等を含む6年間の協力契約を締結。

FSE（Fukuoka School of Entrepreneurship）のエコシステム形成、アントレプレナーシップ教育拡充のための海外協力機関からの支援

- Babson College　山川　恭弘、准教授（Associate Professor）
  FDプログラム実施支援、教育プログラムへのアドバイス
- the Martin Trust Center for MIT Entrepreneurship、 Bill Aulet、Managing Director
  アドバイザー（アントレプレナーシップ教育、エコシステム形成）
- Chalmers School of Entrepreneurship, Chalmers University of Technology 、Mats Lundqvist、Professor, Director
  アドバイザー（アントレプレナーシップ教育、エコシステム形成）

プログラムの整備・主要なIDEAプログラムと実施体制

「九州⇔関西(⇔世界)で」「各地域内で」「各大学で」プログラムを展開し、統合的で拡張性のある、実践的アントレプレナー教育を行う

Interstate Collaboration Program (ICP)
九州⇔関西(⇔世界)で混ざり合い、実践的に学びを深める

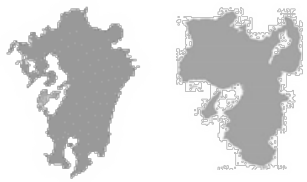
Venture Life Ch
九州及び関西域内の
アップで問題解決を

Startup Challenge
自身が感じる課題を持ち寄りチームで解決法を検討

Camp
びを持ち寄り
決に取り組む

マネジメントゲーム
経営シミュレーションを通じ、九州・関西の学生が学び合う

九州大学 | 九州大学 | 九州大学



Regional Core Program (RCP Kyushu & Kansai)
地域内の協力機関及び海外大学と連携し多様な学びの場を誂える

Bootcamp
米国ボストンで多国籍チームスタートアップを実践する
九州大学

起業部
起業家やVCのメンタリングを受けつつ学生起業を目指す
九州大学

Women-trepreneur
女性視点でのイノベーション創発、起業率上昇を推進する
立命館大学

各大学においてEDGEをさらに発展・高度化させたプログラム

アジアIoT WS
アジア⇔日本往還
九州大学

リーンスタートアップ演習
九州大学

医学系次世代E育成
九州大学

Field
現地課題解決
立命館大学

Sprout
学生企画実践
立命館大学

ソーシャルエコシステム社会課題解決型デザイン力UP
九州大学

Dual-Design Scope
問題解決とデザイン駆動両立
立命館大学

XxX (Cross-By-Cross)多面的クロスオーバー型PBL
NAIST

カンボジアプログラム
多国籍体制で育成
大阪府立大学

統合性
各大学・地域の特性を活かしシナジーを創出

拡張性
プログラムごとに特性を持たせつつICP・RCPで範囲を順次拡張

実践性
アイデアベースに終わらせず出口を見据えた全体設計

プログラムの整備（事例紹介）

学部段階からの
アントレプレナーシップ醸成の促進

・九州大学：「連携大学対抗マネジメントゲーム活用プログラム」は、オンラインの経営シミュレーションゲームを活用するなど、学部レベルの学生でも履修しやすく学部段階からのアントレプレナーシップ教育手法として確立。また、「Asia Pacific Summer Camp」では留学生を交えたフィールドワークを多用し、こちらも学部段階から実践を伴いながら教育する手法として確立できた。

・大阪府立大学：将来に自らの専門知に立脚したスタートアップに新事業創造が柔軟にできる人材となるため、グローバルや地域の社会課題解決を目指した、多様なプログラムの提供を開始。その他学士課程の正規科目「国際活動とキャリア」を開設。アイデア発想法を学ぶコースや、ビジネスの基本を学ぶコース、起業のノウハウを学ぶコースなどの提供。

小・中・高校といった段階からの
アントレプレナーシップ醸成

《取組事例》
・立命館小学校と連携したSDGｓ解決型のオンラインWS
・立命館中学校他4校と連携した創造性教育WS
・立命館高校他4校と連携したピッチイベント等

起業等にまでつながる
実践的プログラムによる支援について

・主幹機関・協働機関に加え、国内外の協力機関、関係大学の学生による混成・多国籍チームを構成しスタートアップ企業ないしベンチャースピリットを色濃く維持している企業で実際のマネジメントに関わる課題解決を行うPBL手法を多く採用した。「Venture Life Challenge」「米国Entrepreneurship Bootcamp」「ソーシャルエコシステム・プログラム」「起業部プログラム」等々

・立命館大学：アイデアを持つ修了生・過去の受講生チームへの支援を実施するEDGEスプラウトコースを設け、ビジネスアイデアコンテスト出場、特許出願などの短期ゴールを設定し、メンターの指導のもと、ビジネスプランの具体化を進め、学内外のコンテスト等へ積極的に出場し多くの賞を受賞している。

・奈良先端科学技術大学院大学：受講後に起業のための活動を継続する際に、協力機関である大阪イノベーションハブのアドバイザおよび奈良先端大・産学連携担当部門の教員・URAが具体的な助言を行う。

ベンチャー・エコシステムの形成

九州の協力機関3大学と産学官連携による地域エコシステム

関西のEDGE採択3大学が協働して構築する地域エコシステム

アントレプレナーシップ教育の基礎から実践までのプロセスを2つの地域エコシステムおよび海外との協働機関とも連携して運営するなど、価値創造を可能にするベンチャー・エコシステムの構築を国内においても広域に、また国際的に実施した。

【RCP Kyushu】

起業部
10年で50社。うち、5社のEXIT

Entrepreneurship Bootcamp
米国ボストンで多国籍チーム
スタートアップ創業実践

医学系次世代E育成
知財共有を軸に医系Eを育成

【ICP】

マネジメントゲーム
経営シミュレーションを通じ、
九州・関西の学生が学び合う

Venture Life Challenge
九州及び関西域内のスタートアップでの問題解決を実践

IDEA Summer Camp
コンソーシアム内の学生がAPUに集結、
アジアの社会課題解決

【RCP Kansai】

Women-trepreneur
女性視点でのイノベーション
創発、起業率上昇を推進

人材育成

九州大学

- 起業部からは、メドメイン株式会社をはじめ、合計**17社**が起業

一般社団法人インパクトラボ
代表理事　上田 隼也 さん
（立命館大学）

立命館大学

- **「Business Sprout Program」**を創設、短期ゴールや特許取得、コンテスト等の目標に向かって育成するロールモデルを形成。
- 創発の場として**「EDGE Room」**を新設・整備。

ryuden プロジェクトリーダ
Umer Sadiqさん
（九州大学）

奈良先端科学技術大学院大学

- 事業期間中に在学学生による起業を**4件**輩出
- ビジネスプランコンテストへの出場も**14件**

株式会社GRow
代表取締役CEO　切田澄礼さん
（奈良先端科学技術大学院大学）

大阪府立大学

- 多様なプログラムに参加した多くの博士の学位を有する**高度研究人材**がイノベーション人材として企業に就職

upG 代表　中庭健太さん
（大阪府立大学）

【４】計画・改善手法の妥当性

資金計画

■補助金の使途について

各大学とも、補助金の使途は文部科学省の要項に則り適切に行い、かつ、学内規程に則り適切な執行を行ってきた。

■外部資金導入について

	H29年度		H30年度		H31（R1）年度		R2年度		R3年度	
	目標	**実績**	目標	**実績**	目標	**実績**	目標	**実績**	目標	**実績**
金額	11,665	**15,608**	11,739	**38,408**	18,854	**57,208**	20,402	**103,253**	26,750	**130,559**
補助金に対する割合%	20%	**27%**	20%	**65%**	30%	**91%**	30%	**152%**	40%	**195%**
差異		**3,943千円（+7%）**		**26,669千円（+45%）**		**38,354千円（+61%）**		**82,851千円（+132%）**		**103,809千円（+155%）**

※本事業終了後も、各大学でプログラムを継続できるよう外部資金の導入を積極化した。特に九州大学では、地元企業からの寄付によるアントレプレナー育成基金に加えて、卒業生起業家2名から複数年に渡る大型寄附（総額3億円）の獲得も実現し、活動の継続性を担保している。

PDCA

✓ コンソーシアムを構成する４大学では、定期的に４校会議を開催し、各校でのプログラムの取組状況やノウハウの共有、RCPやICPに関する協働体制について協議し、適宜プログラムの改善につなげた。
✓ 特に、コロナ禍においてもオンラインで随時会議を開催し、実施状況の確認や代替方法の検討について協議・共有を進めた。

大学	取組内容
九州大学	**・学生とのアセスメントミーティングを開催。** ⇒受講生に科目の評価や日程、場所等幅広く感想を聞く時間を設け、所属部局の授業が重ならない受講生が受けやすい日程等の開講スケジュールからプログラムの内容についての改善等に反映。 **・隔週で教員会議を開催。** ⇒各プログラムの計画や実施状況、課題についてタイムリーに共有し、必要な改善を重ねてプログラム全体を実施してきた。
立命館大学	**・受講生からのフィードバックの活用** ⇒各年度のEDGE＋Rプログラム修了時における、アンケート調査、各講座・ワークショップなどの個別プログラム終了時のアンケート調査、双方の調査により、マクロ・ミクロ両方の視点で、各プログラムの分析を実施し次年度のプログラム構成企画などへ反映した。 **・学外参加者からのフィードバックの活用** ⇒企業協賛ワークショップ等への学外参加者からのフィードバックの活用も行い、学外あるいは企業サイドから見たプログラムの企画内容、進め方などについて、意見・提言を直接ヒアリングし分析・考察した。その結果を次年度のプログラムの制度設計に反映させた。
奈良先端科学技術大学院大学	**・月例の運営会議による短期的なフィードバック** **・前期Geiot実施後と後期クロスバイクロス実施後に半期毎の総括を実施** **・招聘講師に対するヒアリングを都度実施** ⇒これらの内容に基づき第4四半期に、次年度実施計画への具体的な修正反映（クロスバイクロスにおける連携組織の検討や具体的なテーマ設定、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮したダメージコントロール戦略の立案等）を行なった。
大阪府立大学	**・高度人材センターアドバイザリー委員会** ⇒年に一度開催される高度人材育成センターアドバイザリー委員会において、事業の実施報告と問題点の抽出、今後の改善経過について議論を行う体制が構築されている。

【５】今後の見通し «継続性、波及効果»

継続性

RCPあるいはICPとして実施したプログラムについて、基本的には継続して、
かつ相互に学生に情報を提供し履修を促す方策を取る方針について４校で合意済み

各大学	EDGE - NEXTプログラム実施期間 （H29～R3年度）	令和4年度以降
九州大学	✓QRECにおいてアントレプレナーシップ教育の体系を構築し、全学／学外に対して提供する基盤を構築 ✓プログラム継続に必要な資金は獲得済（大型の寄付金含む）	継続
立命館大学	✓本学独自のプログラム「EDGE+Rプログラム」として学内予算および外部資金を資金に活動を継続することが決定 ✓令和元年、RIMIXの立ち上げ ✓令和3年度、起業・事業化推進室が新たに設置	継続
奈良先端科学技術大学院大学	✓令和3年度、教育推進機構下にイノベーション教育部門を設置 ✓Geiotプログラムについては履修証明プログラムとしての受講料と自己資金による長期的な継続のための仕組みを整備済 ✓クロスバイクロスは、連携機関であった大阪イノベーションハブ（大阪産業局）との共同事業として今後の継続を前提にプログラムの再設計を実施。	継続
大阪府立大学	✓プログラム実施の自己財源化	継続

波及効果

取組内容	波及効果
九州大学起業部の活動	平成30年8月に立命館アジア太平洋大学でAPU起業部（通称：出口塾）が発足。 平成30年10月に奈良先端科学技術大学院大学ではにはNAIST起業部が発足。
立命館大学における西尾レントオール株式会社やBIPROGY（旧 日本ユニシス）、株式会社サイエンス等との企業協賛プログラム実施	企業社内の人材育成への波及。 事業立ち上げの機会創出にも繋がり、企業社内の人材育成にに良い影響を与えたとの評価により、令和4年度以降も継続決定。
奈良先端科学技術大学院大学におけるGeiotの実施	大阪イノベーションハブのコミュニティに属して起業を目指す、あるいは、起業途上にある社会人受講者の呼び込み繋がる。
大阪府立大学においては、公立大学として設置自治体との強固な連携関係	地域経済の発展に寄与すべく、大学と自治体トップレベルでの協議体制が実現。その他地域の人材育成にむけた仕組み（例えば、教育委員会と連携した高校生起業家講座の開催体制など）が有効に機能している。

（上）APU起業部

（下）NAIST